

## 法務省政策評価懇談会（第36回）議事要旨

### 1. 日 時

平成25年7月12日（金）13：25～15：34

### 2. 場 所

法務省大会議室（地下1階）

### 3. 出席者

<政策評価懇談会構成員>

伊藤 正志	毎日新聞社論説委員
(座長) 川端 和治	弁護士
佐久間 総一郎	新日鐵住金株式会社常務取締役
田辺 国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
中村 美華	株式会社セブン&アイ・ホールディングス法務部グループ法務シニアオフィサー
前田 雅英	首都大学東京法科大学院院長
山根 香織	主婦連合会会長
六車 明	慶應義塾大学法科大学院教授

<省内出席者>

法務事務次官	西川 克行
官房審議官（総合政策統括担当）	大場亮太郎
秘書課企画調査官	田邊 孝文
秘書課補佐官	中臣 裕之
人事課係長	佐藤 太
官房参事官（予算担当）	伊藤 栄二
施設課技術企画室長	徳広 敏彦
訟務部門訟務広報官	吉原 宏
司法法制部参事官	高松 宏之
司法法制部参事官	松井 洋
官房付兼司法法制部付	佐久間佳枝
民事局付兼登記所適正配置対策室長	藤田 正人
民事局付	武見敬太郎
刑事局総務課企画調査室長	佐藤 剛
矯正局成人矯正課企画官	本田 久人
矯正局成人矯正課企画官	宮田 祐良
矯正局成人矯正課企画官	花村 博文
矯正局少年矯正課企画官	小山 定明

保護局観察課処遇企画官	稲葉 保
人権擁護局参事官	大山 邦士
入国管理局総務課企画室長	福原 申子
法務総合研究所総務企画部副部長	岡本 安弘
公安調査庁総務部総務課企画調整室長	横川 智之
<事務局>	
官房参事官（総合調整担当）	椿 百合子
秘書課付	熊田 彰英
秘書課補佐官	山田 美子

#### 4. 概要

平成24年度法務省事後評価実施結果報告書（案）について事務局から説明した後、委員に意見を求めた。

#### 5. 主な意見・指摘等

○平成24年度法務省事後評価実施結果報告書（案）について

<社会経済情勢に対応した基本法制の整備>

・本会議の段階で重要な法案が成立している場合、その現状を記載すべきではないか。

<裁判外紛争解決手続の拡充・活性化>

・認証紛争解決手続の利用実績とはどういう意味合いの数字か。また、クオリティーがどの程度担保されているかという観点から、和解に至った割合を御教示願いたい。

<法教育の推進>

・懸賞論文コンクールについて、応募総数が2桁となっているが、人権作文コンテストに比べるとかなり少ない。何か方法を変えるか、又は、もうコンクールという形を止めて別の方向での法教育の拡大を目指してはどうか。

<検察権行使を支える事務の適正な運営>

・通訳人セミナーについて、アンケートで有意義であるという回答が多い中で、一つの講義だけが「どちらともいえない」という回答が多いが、この結果を受けて、講義内容について改善をする必要があるのではないか。

・中国語、スペイン語、ポルトガル語の3つの言語のグループ構成について、3つのうち中国語だけが他の2つの言語と比べて法制度が相当かけ離れていると思うが、この3つの言語に絞った理由は何か。

また、3つの言語ではなく、1つの言語に集中して、その言語の特性及びその国の特性を見据えたようなセミナーにした方がより効果的ではないか。

<矯正施設の適正な保安警備及び処遇体制の整備>

・平成24年度予算は、当初及び補正を合わせて約78億円であり、対前年度比で大幅増となっているが、訓練数が増えたわけではなく、総合警備システムの整備施設数も特になくなっていないが、大幅増になっているのはなぜか。

<矯正施設における収容環境の維持及び適正な処遇の実施>

- ・（「矯正施設の適正な運営に必要な民間委託等の実施」との比較において）職業訓練受講者数と資格・免許等の取得者数を比べた場合、資格・免許等の取得者数について、一般の刑務所では多く、PFI施設においては、少ないとの印象を受けるが、その違いは何か。

<矯正施設の適正な運営に必要な民間委託等の実施>

- ・測定指標1において、受講者数や修了者数は増加しているが、資格・免許等の取得者は増加していないことをどうとらえているか。

<保護観察対象者等の改善更生等>

- ・保護観察終了者に占める無職者の割合について、0.1ポイント減となり目標値を上回ったということから目標を達成したと評価しているが、その結果のみで評価していいのか。

<国籍・戸籍・供託事務の適正円滑な処理>

- ・帰化許可申請について、前年からの審査の持ち越し件数や、詳細な審査が必要となる件数の割合、審査に要する時間など、より実態が分かるような数字を示すことはできないか。

<債権管理回収業の審査監督>

- ・測定指標2については、本来、100パーセント、再指摘件数0件を目指すべきではないか。